

審議会等会議録

審議会等の名称	山口市合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議（第2回）
開催日時	平成22年2月19日（金曜日）9：50～11：10
開催場所	山口市小郡下郷 山口市小郡浄化センター
出席者	<p>◇山口市合流式下水道緊急改善事業アドバイザー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上美代子氏（地元代表者：山口市連合婦人会 小郡支部会長） ・岡本斌氏（山口市社会福祉協議会小郡支部支部長） ・片山淳氏（学識経験者：山口芸術短期大学教授） ・國安克行氏（地元代表者：山口市小郡区域区長協議会会長） ・山本豊氏（有識者：元山口県職員） <p>※アドバイザーは、小郡地域まちづくり審議会委員から選任した。</p> <p>◇山口市合流式下水道緊急改善事業オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩崎旬氏（日本下水道事業団計画設計課） ・福島照治氏（下水道施設課副参事兼小郡浄化センター所長） <p>◇山口市 御手洗上下水道局長 乃美上下水道局参事</p>
欠席者	0名
事務局	下水道整備課：宮田課長 山根副主幹 原田主査 浅原主査 峰技師
議題	<p>5 合流改善対策</p> <p>6 合流改善計画のまとめ</p>
内容	<p>① 開会 下水道整備課長挨拶</p> <p>② 委員・オブザーバー・職員紹介</p> <p>③ 会議録作成とその公開 会議録作成のための録音の承認</p> <p>④ 議事： 前回のまとめ（Q&A）</p> <p style="padding-left: 40px;">5 合流改善対策</p> <p style="padding-left: 40px;">6 合流改善計画のまとめ</p> <p>⑤ 質疑応答</p> <p>< Q 1 > 遮集量の増強について、もう一度詳しく説明してほしい。 (A 1) ポンプ場に越流堰があり、雨天時において、堰を越えない範囲で処理場へ圧送している。ポンプの容量を大きくすれば、堰が同じ高さでも送れる量は増える。現在、6Q相当までは圧送しており、対策案では9Qまで送る計画です。</p> <p>< Q 2 > 長谷ポンプ場において、雨水と汚水と一緒に集まり、雨天時に未処理水を公共用水域に放流する説明があったが、構造について説明してほしい。 (A 2)</p>

(長谷ポンプ場の図を示し) 処理場へ圧送するルートと未処理で放流することについて説明。

また、合流の下水を分けることについては、分流式と合流式の考え方があり、分けて放流するには当初から分ける分流式でないといけない。

< Q 3 >

高速ろ過施設は現有施設を改造して設置するというが、改造には時間を要する。その間、通常の水処理に悪影響は出ないか。

(A 3)

(処理場の図を示し) 高速ろ過施設を平成 24・25 年度で 1 系の最初沈殿池を改造して整備する計画だが、改造中は使用できなくなる。そのときまでに、4 系の整備をすすめ、こちらが使えるようになってから高速ろ過施設を整備する。合流改善には直接関係しないが、小郡処理場は年次計画を立てて改築しているところであり、既設の 1～3 系列も随時改築する。4 系は高度処理化に伴って施設を整備する計画。1 系の改築までには 4 系を整備し、改造が間に合うようにする計画です。

< Q 4 >

対策案 1～8 までで、コストが最も安いものを選んだと思われるが、環境への負荷はどれが小さいのか。また、新山口駅前の整備・開発の問題が話題になっている中、平成 25 年に緊急合流改善が完了というが、市の人口増や商業活動の変化などについてはどのような推計をしているか。

(A 4)

全国的には少子高齢化、人口減少下社会を迎えている。小郡処理区でも長期的には人口減少が見込まれるが、推計ではあるが、短期的には平成 30 年までは人口が増えるという計画である。その後は減っていくと見込んでいる。

環境負荷については、簡易処理や滞水池などの案を比較検討したが、目標水質を満足する施設規模としているため、どの案も大きな差はない。計算上は、雨天時活性汚泥法がやや優れているが、9 Q 遮集に対応するためには施設規模が大きくなるため、高性能連続処理に比べて経済性で劣る。

< Q 5 >

それぞれの案について負荷量の説明があったが、対策案 3 について、汚濁負荷量が大幅に削減される案になっているが、事業量が大きくなっている面もある。ほかの案の採用は考えられなかったのか。

(A 5)

先ほども説明したが、クリアしなければならない目標設定がある。年間汚濁負荷量の計算結果を示したが、対策案 3 は、目標値 56.0 t に対して 55.8 t となっている。対策案 4 では 51 t であり、だいぶ減るのは確かである。しかしながら、概算事業費が非常に大きくなる。なぜ対策案 3 を選んだのか。建設費も当然あるが、右側に、維持管理費用も含めた毎年かかる費用を示しているが、年間 2 千 9 百万円ですむ。維持管理と建設コストを含めて検討したものです。

市が策定した計画であり、市が行う事業ではあるが、国から同意を得て、補助事業として可能な計画としている。そのあたりも踏まえて、対策案 3 を選定している。

< Q 6 >

今回対策案の検討にシミュレーションモデルを採用しているが、妥当か。

(A 6)

資料のキャリブレーション結果参照。平成 15 年にモニタリング調査を実施した。5 月 30 日、6 月 11 日、11 月 5 日まで 3 度、水質と流量を実測した。シミュ

	<p>レーションするためには実測結果とモデルが整合するか確認する必要がある。今回は、マウスというソフトを使ってモデル化している。実測を基に、計算値と実測値が近づくよう、パラメータを調整して、小郡の合流区に合うようキャリブレーションを行っている。それらの処理をして、100ヘクタールあるうちの32ヘクタールを雨水分離したときのシミュレーションを実施した。シミュレーションは妥当と考えている。</p> <p><会長> 3つの大きな目標があった。それらを達成するために、市がこれまで、これから行う対策案について、いろいろ意見をいただいた。それぞれ、事務局に確認させたところである。 対策案は費用対効果をあわせて検討している。今後は実施に向けてさらに努力をしていただき、特に費用対効果について、対策案について、いろいろ議論したところであるが、<u>アドバイザー会議の意見として了承するということ</u>でよいか。 (委員一同了承)</p> <p>保留とする案件はなし。</p> <p>それではアドバイザー会議の取りまとめについて。</p> <p>(事務局) 会長からあったように、今後の流れについて。 国の同意を得る作業がある。対策案を認めてもらうため、議事録を作成し、各委員にお届けする。アドバイザー会議の意見をまとめ、各委員に意見案を議事録とともに作成して確認していただく。最終的には国に提出する答申書を会長に作成していただき、国に提出するという考えだが、よろしいか。 (委員一同了承)</p> <p><会長> 下水道は普段何気なく使っているが、上水道のように、直接食生活にかかわるものではないので、下水処理場のような施設に対する市民の意識は薄い。しかしながら、改善計画については小郡町時代から叫ばれていたが、財政的にも難しかった。小郡地域にとって前からの懸案事項のひとつだったので小郡の市民は歓迎していると思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>山口市上下水道局 下水道整備課 管理計画担当</p>